

企業理念

基本理念

心と技術をこめたモノづくりにより、幸せと豊かさに貢献します

経営方針

技術の先端に挑戦し、新しい価値をつくりだす
独自の領域を切り拓き、事業の広がりを追求する
人を大切にし、人を磨き、人が活躍する場をつくる
社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする

環境基本方針

経営方針に示された「社会に対する公正さと、環境との調和を大切にする」を基本として、

- 1 環境負荷の低減
商品開発から生産、販売、廃棄に至る全段階での環境負荷の低減に取り組みます
- 2 環境保全への取り組み
企業全部門が全ての活動分野で環境保全に取り組みます
- 3 社会への貢献
地球及び地域の一員として社会貢献に取り組みます

環境行動指針

- 1 資源の節約と再利用
廃棄物の削減とマテリアルリサイクル技術の向上に努めます
- 2 地球環境への影響を配慮した企業活動
地球温暖化防止対策としての二酸化炭素排出量削減に努めます
- 3 地球に優しい商品の提供と資材の購入
環境負荷低減型商品の開発とグリーン調達に努めます
- 4 環境管理体制
国内、海外生産拠点の「ISO14001」認証取得と従業員の教育啓蒙に努めます
- 5 環境保全活動の強化
化学物質管理活動の強化を行ない、有機溶剤の排出削減に努めると同時に、関係環境法令の遵守による環境保全に努めます
- 6 良き企業市民としての活動
環境への取り組み状況の社内外への積極的な広報に努めます

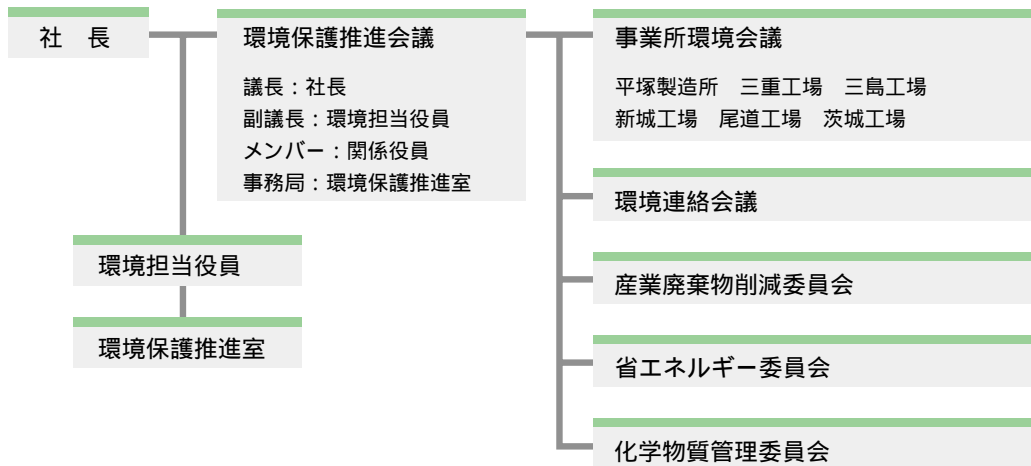
横浜ゴムは企業理念に基づいて、1993年に「環境基本方針」を制定し2002年に改定を行いました。

環境保全活動の推進体制

横浜ゴムは1992年に「環境保護推進室」を設置、翌93年に社長を議長とし役員で構成する「環境保護推進会議」を発足させ、全社的かつ体系的に取

り組む体制を整えました。環境保護推進会議の下部組織として各事業所環境会議、環境連絡会議、産業廃棄物削減委員会、省エネルギー委員会、

化学物質管理委員会を置き対策に取り組んでいます。



環境マネジメントシステム

横浜ゴムの環境マネジメントはISO14001をツールとして活用し、「環境保護推進会議」での決議に基づき、全社としてPDCAサイクルを回して課題を解決しています。また生産事業所では、各事業所ごとに構築されたISO14001の体制により、課題を計画化、実行し、計画との差異をフォローして、確実な成果へと結び付けています。導入当初リスクとして取り上げられた課題が解決してきたことで、現在は、当初下位にあった課題を逐次取り上げ、リスク低減に取り組んでいます。

内部環境監査

1996年から環境監査制度を導入しています。現在は環境保護推進室が各生産事業所に対して行う全社監査と、各生産事業所が独自に行う内部監査を実施しています。

全社監査では環境パフォーマンス、法規制の遵守、リスク管理、内部監査では環境パフォーマンスと環境マネジメントの運用を中心に監査し適宜、改善指導して結果フォローを行っています。

また、制度を充実させるため、2001年から自社のカリキュラムで、内部監査員教育を実施しており、今後毎年20名程度の内部監査員を養成していく予定です。

リスクマネジメント

環境マネジメントシステムにおいて、環境汚染事故の可能性を特定し、緊急事態発生時への対応と環境影響の予防、緩和のための体制及び手順を確立しています。これらの体制及び手順は、定期的にテスト、評価を繰り返し、より確実なものにする努力を続けています。

ISO14001 認証取得

国内では子会社の横浜ハイデックスを含む主要生産事業所で認証を取得しました。また、海外ではヨコハマタイヤ・フィリピンが認証を取得しています。今後さらに国内の関連会社、海外工場でも認証取得計画を進めてまいります。

教育・啓蒙

ISO14001の要求事項に則り、各事業所の構成員に対する「環境保全への意識づけ」のための教育や、環境に大きな影響を与える業務に携わっている構成員に対する訓練や専門教育を実施しています。また新入社員に対する「環境保全技術」研修、部門長を中心とした組織管理職に対し、法や世界の動きなど最新情報を中心とした教育、情報提供などを実施しています。

環境行動計画と実績

生産段階

| 環境行動目標 | 中期目標 | 2001年度 | | 自己評価 | 参照ページ |
|-----------------------|------------------------------|--------------|--------|------|-------|
| | | 目標 | 実績 | | |
| 廃棄物 発生量の削減 | 2005年度までに1996年度比50%削減 | 1996年度比30%削減 | 31%削減 | | p16 |
| 埋立量の削減 | 2005年度末までにゼロ・エミッション(埋立ゼロ)を達成 | 1998年度比20%削減 | 16%削減 | | p16 |
| CO ₂ 排出量削減 | 2010年度までに1990年実績レベルに安定化 | 1990年レベルの維持 | 12%削減* | | p18 |
| 有機溶剤排出量削減 | 2005年度までに1995年度比50%削減 | 1995年度比25%削減 | 32%削減 | | p19 |

*2001年度より算出方法の見直しを実施したため、2001年度版のデータとは数値が異なります。

環境マネジメント

| 環境行動目標 | 2000年3月末までの成果 | 今後の目標 | 参照ページ |
|---------------|---------------|-------------------|-------|
| ISO14001の認証取得 | 国内全工場での取得完了 | 国内関連企業および海外工場での取得 | p4 |

グリーン購入

| 環境行動目標 | 中期目標 | 2001年度実績 | 参照ページ |
|-------------------------|--------------------------------|----------|-------|
| 購入原料および供給先の環境評価 | 2005年度までに、総購入金額の70%にあたる供給先を調査 | 59% | p21 |
| 事務用品、ファイル、筆記具、用紙のグリーン購入 | 2005年度までに、総購入金額の75%を環境配慮型商品に変更 | 51% | p21 |

商品開発

| 環境行動目標 | 開発課題 | 現在までの実績 | 参照ページ |
|-----------------------|----------------------------------|------------------------------------|-------|
| タイヤ | | | |
| CO ₂ 排出量削減 | 商品の環境負荷低減評価方法の確立 | タイヤLCAのインベントリー分析方法の確立 | p23 |
| | 新商品設計段階での環境性能評価 | タイヤ設計審査への「環境適合設計評価」制度導入 | p23 |
| | 燃費の向上 | ころがり抵抗を9~14%低減(従来品比)した「DNA」シリーズ上市 | p24 |
| 騒音低減 | タイヤが要因となる車内音、車外音の低減 | 低ノイズサイドグループ、新ピッチ配列、サイレントカーフの開発 | p25 |
| 資源節約 | タイヤ寿命の向上 | タイヤ寿命を21%(従来品比)向上した「DNA map-RV」を上市 | p25 |
| MB | | | |
| 有機溶剤の削減 | 無溶剤型ウインドシーラント | 自動車メーカーへ納入 | p27 |
| | 無溶剤型接着剤 | 自動車メーカーへ納入予定 | p27 |
| | シックハウス症候群対策接着剤 | VOC削減の住宅向け接着剤の上市 | p26 |
| 脱フロン対策 | 次世代冷媒(CO ₂)対応エアコンホース | 金属箔内装ホース技術の確立 | p26 |
| 脱塩素化対策 | 非塩素系ゴム製油圧ホースの開発 | 配合仕様の確立と製品仕様の確立 | p26 |
| 廃棄物削減 | 新型シーリング材容器 | ブリキ缶に替わる易解体プラスチック容器実用化 | p26 |
| 騒音対策 | 多孔質弾性舗装材 | 試験施工による耐久性評価 | p27 |

生産事業所の概要

横浜ゴムグループのおもな国内生産事業所では、グループ共通の「環境基本方針」、「環境行動計画」に基づき環境保護活動を推進していますが、同時にそれぞれの拠点で独自の「環境方針」を持ち、特徴ある活動を行っています。各事業所での取り組み内容の一部をお知らせするとともに、地域住民とのコミュニケーション活動をご紹介します。



尾道工場
 生産品目：建設車両用タイヤ
 敷地面積：204,002m²
 従業員数：190人
 〒722-0051
 広島県尾道市東尾道20番地
 TEL: 0848(46)4580



三重工場
 生産品目：トラック・バス用、
 乗用車用、小型トラック用、
 産業車両用タイヤ
 敷地面積：268,694m²
 従業員数：952人
 〒516-8530
 三重県度会郡御園村高向1038番地
 TEL: 0596(28)3151



新城工場
 生産品目：乗用車用、
 小型トラック用タイヤ
 敷地面積：217,935m²
 従業員数：736人
 〒441-1343
 愛知県新城市野田字古屋敷1番地
 TEL: 05362(2)2251



横浜ハイデックス長野工場
 生産品目：油圧ホース金具、
 油圧ホースアッセンブリー
 敷地面積：22,275m²
 従業員数：157人
 〒399-3102
 長野県下伊那郡高森町吉田548番地
 TEL: 0265(35)3211

茨城工場
 生産品目：高圧ホース、シーリング材
 敷地面積：152,363m²
 従業員数：208人
 〒319-0198
 茨城県東茨城郡美野里町羽鳥西1番地
 TEL: 0299(46)1111



本社
 〒105-8685
 東京都港区新橋5-36-11
 TEL: 03(5400)4531

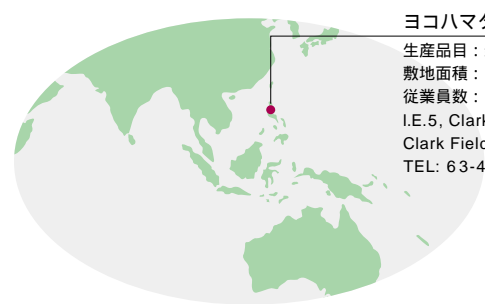
平塚製造所
 生産品目：航空機用タイヤ、各種ベルト、
 ゴムライニング製品、防舷材、
 各種止水製品、その他各種工業品、
 航空機用各種部品、スポーツ用品、
 建築用・自動車用シーリング材
 敷地面積：337,911m²
 従業員数：1,655人
 〒254-8601
 神奈川県平塚市追分2番1号
 TEL: 0463(35)9505



横浜ハイデックス平塚事業所
 生産品目：空調機器用カップリング、
 油圧ホース金具、
 油圧ホースアッセンブリー
 敷地面積：16,026m²
 従業員数：288人
 〒254-0016
 神奈川県平塚市東八幡4丁目6番40号
 TEL: 0463(23)0331



三島工場
 生産品目：乗用車用、レース用、
 小型トラック用タイヤ
 敷地面積：112,375m²
 従業員数：552人
 〒411-0832
 静岡県三島市南二日町8番1号
 TEL: 0559(75)0800



ヨコハマタイヤ・フィリピン
 生産品目：乗用車用タイヤ
 敷地面積：165,000 m²
 従業員数：536人
 I.E.5, Clark Special Economic Zone,
 Clark Field, Pampanga, Philippines
 TEL: 63-45-599-3603-9

平塚製造所



所長
岡本和雄

所長メッセージ

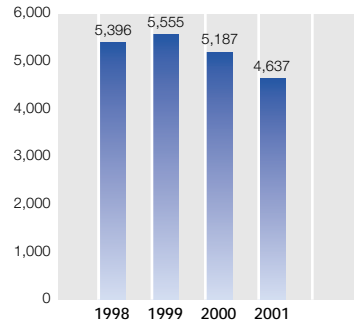
平塚製造所は、全社の研究・開発・設計部門とさまざまな工場群からなる総合工場です。1998年からISO14001を軸に環境改善活動を実施するとともに、コージェネレーション設備や無溶剤工程の導入も進めています。また、研究・開発・設計部門では環境配慮型製品としてエコタイヤシリーズや無溶剤タイプの接着剤などを開発していま

す。今後も平塚製造所は、横浜ゴムの中核拠点として環境改善に取り組み、より大きな成果につなげたいと考えています。

2002年度取り組みの重点

ISO14001を導入した1998年度から2001年度までに、廃棄物発生量17%削減、リサイクル率12%向上、有機溶剤大気放出量30%削減、テトラクロロエチレン・ジクロロメタン全廃などを達成しました。2002年度は、製造工程からの排出物低減、有機溶剤のリサイクル率向上、製品、設備の環境アセスメント強化に取り組む計画です。また神奈川県大井町埋立処分場の2003年閉鎖に向け、廃棄物のリサイクルをさらに促進する考えです。

廃棄物発生量推移(トン)



近隣工場環境責任者による見学会

三重工場



工場長
山下久邦

工場長メッセージ

三重工場がISO14001の認証を取得してから、2001年12月で3年が経過しました。この間三重工場は、環境方針に掲げた「神都、伊勢の自然との調和・融合と地域との共生を目指す」をもち、地域の環境保全活動を最重点課題としてきました。その結果、臭気、騒音、ふんじん飛散に対する苦情が減少したことで、私たちの取り組みは成果をあげたと考えています。

今後新たな目標である、廃棄物の埋立処分量ゼロを目指す「ゼロエミッションの達成」に向けて全力で取り組みます。

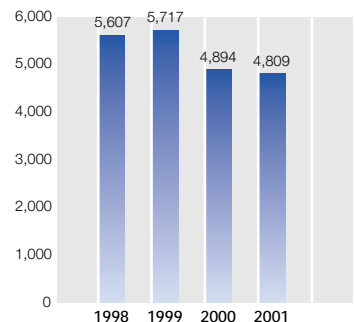
2002年度取り組みの重点

2001年度には吸着式脱臭装置を設置し、ゴム臭は大幅に改善されました。今年度は、臭気、騒音、ふんじん飛散防止の先手管理を実施します。また、廃棄物については発生抑制を重点課題とし、あわせて再利用、リサイクルを促進して埋め立て処分量を削減します。

子どもたちと伊勢大祭り

昨年10月に行われた伊勢大祭りでは、「ちびっこ広場」を担当し、子どもたちの人気を集めました。

廃棄物発生量推移(トン)



伊勢大祭りでの「ちびっこ広場」

三島工場



工場長
水本康博

工場長メッセージ

1998年にISO14001認証を取得してからの3年間は、マネジメントシステムからの3年間は、マネジメントシステムからの3年間は、マネジメントシステムの定着と運用に傾注してきました。今後はこれをベースにし、ゼロエミッションなどの高い目標に向かって、技術開発と日常管理・改善活動の両面で取り組む考えです。

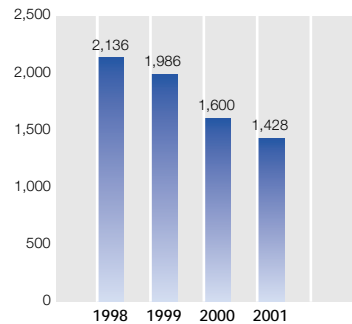
2002年度取り組みの重点

ゼロエミッション達成に向け分別を徹底することで、リサイクル、リユースを促進し、廃棄物の発生量及び埋立量削減を進めます。また、有機溶剤の削減も目指します。

環境保全功労賞を受賞

2002年5月、三島地区環境保全推進協議会から、環境保全功労賞を受賞しました。ISO14001認証取得をはじめ、ボイラー燃料を重油からガスへ切り替え、また川や工場周辺の清掃ボランティアなどの活動が評価されたものです。

廃棄物発生量推移(トン)



工場周辺にある桜川の清掃ボランティア

新城工場



工場長
上林俊行

工場長メッセージ

ISO14001認証取得から3年が経過しました。この間に対1998年比で廃棄物発生量37%、最終処分量55%を削減し、またエネルギー単位数も燃料19%、電力11%改善し、有機溶剤についても16%削減することができました。新城工場がISO14001の認証を受けたことで、市民の工場への関心も高まっています。また地域最大の工場のため企業市民としてのリーダー

シップも強く求められ、環境関連のボランティア活動にも積極的に参加しています。今後も、新城市の環境保全活動を推進し、地域とのよりよいパートナーシップを築いていきたいと考えています。

2002年度取り組みの重点

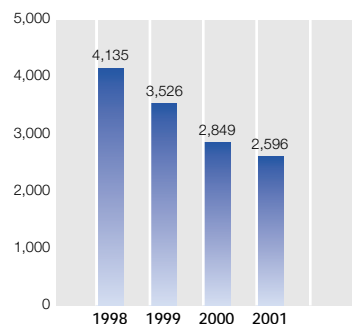
2005年度までにゼロエミッション達成を目指しています。

市民環境会議を工場で開催

2002年1月、新城市が主催する「新城市民環境会議」を新城工場で開催しました。「新城市民環境会議」は、市、市民代表、環境活動関連団体が協力しあい、新城市での廃棄物、大気汚染、騒音、生活排水から、地球の温暖化、オゾン層破壊問題まで幅

広く検討し、その対応策を探ろうという組織です。今回は、大規模生産工場での環境保全活動の実態を見学することが目的で、とくに廃棄物削減対策や工場排水の管理に関心が集まりました。

廃棄物発生量推移(トン)



尾道工場



工場長
大森 忠

工場長メッセージ

尾道工場は工業団地に立地するという特性もありますが、風光明媚な瀬戸内海沿岸の景観を保持すべく地域環境に配慮した環境保全活動に努めてきました。

2002年度取り組みの重点

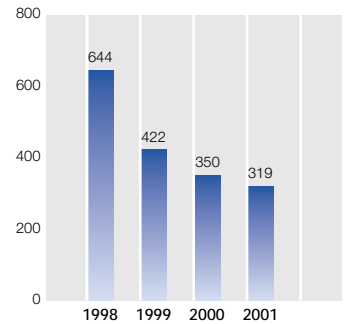
2005年の全社ゼロエミッション達成に向けて、尾道工場も重点課題として取

り組んでいきます。2002年度は焼却炉の廃止を計画しています。焼却物を一部行政に委託することになりますが、さらに分別を強化することで、リサイクルを推進していきます。また、現在最終処分処理を行っている廃タイヤ、ゴム屑、ゴム付スチール屑などについてもリユース、リサイクルを拡大し、ゼロエミッションにつなげていきます。

地域社会活動

工場敷地内にタイヤで製作した恐竜3頭を展示した恐竜公園を設け、一般に開放しています。また年4回、工場周辺道路の不要物撤去、清掃を実施するほか、「ひろしま地球環境フォーラム」の会員として県内の各種環境行事活動にも参加しています。

廃棄物発生量推移(トン)



一般開放している恐竜公園

茨城工場



工場長
山野博道

工場長メッセージ

茨城工場では、「工場環境方針」の第一に“すべての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組む”ことを唱い、以下、“信頼される工場となるための環境マネジメントシステムの強化”、地元である“美野里の自然との調和・融合”などを掲げ、活動を推進しています。

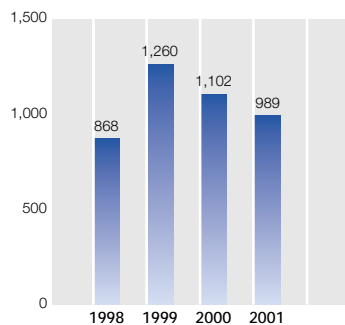
2002年度取り組みの重点

2002年度も引き続き、脱鉛を積極的に推進していきます。また工場全体として、屑削減をテーマに取り上げていきます。クリーンファクトリーを目指し、ゼロエミッションとグリーン購入の促進にも取り組みます。

地域社会とのパートナーシップ

工場周辺の環境に関する情報を積極的に収集し、記録を取って必要な対策を実施しています。また、工場敷地内の野球場を一般に開放したり、美野里町主催のふれあい祭り、駅伝大会に参加するなど、地域社会や自治体とのコミュニケーションを大切にしています。

廃棄物発生量推移(トン)



美野里町駅伝大会に社員が参加

ヨコハマタイヤ・フィリピン



社長
高井星児

社長メッセージ

地球環境に調和した企業を目指し2000年10月にISO14001の認証を取得しました。リデュース、リユース、リサイクルの3Rを活動の中心に据え、環境面においてもフィリピンのリーディングカンパニーとなることを目指しています。

2002年度取り組みの重点

製造工程屑の低減、分別の徹底によって廃棄物の削減とマテリアルリサイクルの向上に努めます。消費電力量を2001年度比で10%削減する計画です。そのほか、環境庁と共同でタイヤの製造工程で発生するゴム屑の道路への有効利用を研究してます。

廃材リサイクル

従業員が自主的に木製パレット、ビードワイヤーの梱包材(スチール製)などの廃材を利用して、キャビネット、椅子、ロッカーなどを製作し、これを社内で利用しています。また、原料の梱包などに使われたベニヤ板の廃材を従業員に支給しており、自宅の増改築や家具づくりに利用されています。



廃材を利用したテーブル



廃材を利用したロッカー

横浜 ハイデックス



社長
高尾 武

社長メッセージ

「地球にやさしく、継続発展できる会社」への変革をめざし、2001年10月にISO14001の認証を取得しました。認証取得活動を通じ、地球温暖化、廃棄物、塩素系有機溶剤の使用、フロンによるオゾン層の破壊など、当社事業が環境に及ぼす影響をより明確化しました。これらの課題に積極的に取り組むとともに、環境配慮型製品の

開発面で、リーディングカンパニーになりたいと考えています。

2002年度取り組みの重点

廃棄物の削減と環境配慮型製品の開発が重点課題です。廃棄物は最終埋立量を将来ゼロにできるよう、発生量の削減、再利用、リサイクルに取り組みます。環境配慮型製品は、非塩素化、新冷媒対応ホースなどの早期開発を推進します。

提案型の地域コミュニケーション活動

横浜ハイデックスでは、土壌汚染などの公害型はあってはならないものであり、地域のモラルを高めるクリーン活動は提案型で、信頼される会社のベースをなすと考えています。こうし

た方針に基づき、長野工場では従業員による天竜川河川敷のゴミ集め、平塚事業所では工場周辺の美化活動を行っています。



平塚事業所内リサイクルセンター